№ 78
1987.
8. 25

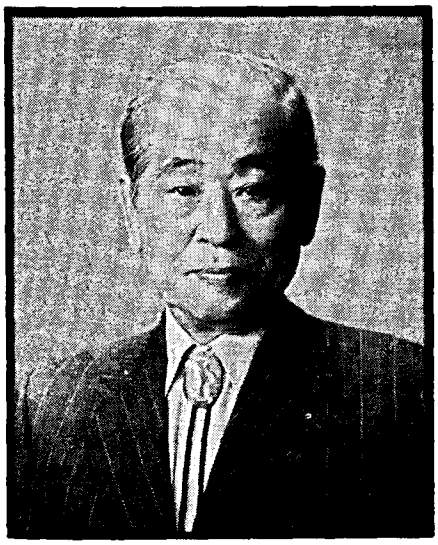
岐阜の博物館

編集兼発行
〒501-32 関市小屋名（百年公園内）
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111(代)
振替 名古屋6 37909

―特　集―

岐阜県博物館協会副会長
元 岐 阜 城 館 長

故　郷　浩氏を偲ぶ



ありし日の 郷　浩 氏

郷 浩氏 略歴

明治38年12月16日　岐阜市に生まれる
昭和3年3月16日　岐阜高等農林学校農科卒業
昭和4年4月1日　岐阜市役所勤務
昭和7年4月1日　岐阜県農林部農務課勤務
昭和10年9月10日　大阪府産業組合課に転勤
昭和14年2月1日　農林省農林更生部に転勤
昭和17年2月1日　岐阜第六十八連隊に応召
昭和22年2月　食料品事業を経営する
同29年 廃業
昭和31年12月26日　岐阜市立岐阜城館長に就任
この頃より岐阜城史、郷土史研究に入る
昭和41年6月　岐阜県博物館協会理事長に就任
昭和47年8月　〃　副会長に就任
昭和48年9月10日　東海古城研究会々長に就任
昭和52年5月25日　岐阜県文化財保護協会々長に就任
昭和62年1月20日　死 去

表　彰

昭和51年10月18日　永年の博物館事業に対し日本博物館協会より表彰を受ける。
昭和52年6月9日　東海地区博物館連絡協議会より表彰を受ける。
昭和58年9月29日　岐阜県文化財保護協会より文化財保護の功績により表彰を受ける。
昭和58年11月8日　文化財保護活動の功績により岐阜県ユネスコ協会より表彰を受ける。
昭和60年5月9日　岐阜県博物館協会の創設に尽力され、協会発展のために寄与された功績により岐阜県博物館協会より棚橋記念賞を受ける。

この他、県、市町村、各団体よりの感謝状等受賞多数。

主な著書

岐阜城物語　（昭和34年）
落城私考　（昭和40年）
稲葉城落城年代考　（昭和44年）
歴史と伝説の谷間　（昭和61年）

その他、岐阜城落城私考、美濃岐阜城、「岐阜百点」誌に竹中半兵衛一代記17回連載、「歴史読本」「中日新聞」「岐阜日々新聞」等に連載。

追　憶　の　辞

岐阜県博物館協会会長．岐阜市長　蒔　田　　浩

岐阜県博物館協会副会長 郷 浩さんは、去る1月20日 不幸病魔のため、忽然として幽明境を異にせられました。まことに痛惜のきわみでございます。ここに御生前を回顧し、衷心より哀悼追憶のことばをささげたいと存じます。

あなたは、明治38年 岐阜市に生をうけられ、岐阜県立岐阜中学校を卒業後、岐阜高等農林学校に入学、農業経済学を専攻され 昭和4年 岐阜市役所に奉職されました。その後岐阜県庁、大阪府庁、農林省に勤務され、昭和17年 には中国大陸へ出征されました。昭和22年 復員後各種事業経営にあたられた後、昭和31年12月26日から昭和54年3月31日までの 22年余の長きにわたり、岐阜城の館長として又嘱託として管理に従事されたのであります。

生前のあなたに想いをいたすとき、あなたは生粋の岐阜っ子であり、岐阜を愛されておられました。「歴史を知らずに現在の岐阜を語る資格はない」と口ぐせのように話しておられました。岐阜市嘱託として岐阜城に就職されたのも郷土岐阜の歴史をひもといていただきたいということで、当時の市長がお願いされたと伺っております。

又、あなたは岐阜城落城論争にみられるように物事をとことん追究し、自分と対立した学説があれば徹底的に研究し、真相が解明されるまで断じて譲らない剛毅果断なところがありました。これも岐阜高等農林学校時代の恩師から、「1日3時間ずつ3年間1つことを続ければ地方のベテランになれる。10年続ければ 1国のベテランになれるはずだ。今後はどんなことでもいいから1代1つのみちをやり通せ」の励ましをうけ、郷土の歴史の研究に没頭され1年に200冊、今までに2500冊を 読破された自負があってのことと思います。

さらにあなたは、岐阜県博物館協会の設立にあたってはその中心となられ、昭和37年 には設立準備発会式を行われ強い行動力によって博物館関係者を結集し、昭和41年に 岐阜県博物館協会の設立をみたのであります。

その後は、当協会の理事長・副会長として協会運営と県下の博物館関係者の育成指導に情熱を傾けられました。その功績は誠に偉大なものであり、我々の今後の博物館運営にあたっての指針となることでありましょう。

私どもは今後、あなたのご遺業を益々顕彰し史跡の整備にあたり、奥行きのある観光都市実現に向けて奮起努力いたすことを誓うものであります。

郷さんどうか安らかにお眠りください。

蕪辞を述べ追悼のことばといたします。

生涯学び続けた人　郷　浩先生

高山短期大学　飛騨自然博物館　学芸員　小野木　三　郎

最近の統計資料によると、岐阜県は博物館数では全国ベスト6位、人口10万人 当りの館数にすると、7.1館で第3位だそうです。このデーターだけから、岐阜県が博物館文化活動の先進県であるかどうかは断定できません。博物館とは名ばかりで、商業施設にすぎないもの、文化的“箱物”はできても、学芸活動の心臓部〜学芸員不足・不在のものが少なくありません。そうした実態を嘆き“博物館人”づくりの大切さを口にされ続けてきたのは 郷 先生でした。

岐阜県博物館協会は、故名和正男、吉田幸平、郷 浩 といういわば岐阜県博物館界のご三家によって結成されましたが、種々雑多・弱体小規模館園の多い県下の実態の中で、〝どんなに個

（第3回会員研修会の郷浩氏）

人のコレクションの公開であろうと、商売として展示館を開いていようと、そこに「もの」がある限り博物館たらねばならない。博物館の何であるかを、知らないやつらには、博物館学理論を教えてやらねば……〃が、郷先生の口ぐせでした。

協会が発足したものの、当初は会員意識も低調で、会費を納入する会員は10数館にすぎなかったことを思い出します。それでも〃機関誌を発行し、誌面から啓蒙し続けよ〃との郷主張を受け、県下のあらゆる博物館及び類似施設等へ、一方通行を承知で100通以上せっせと会誌を送り続けたものでした。今日、会費納入の協会会員館が100館に達しようとしている盛会をみて、郷先生は天国でほくそ笑んでおられることでしょう。

〃人間は、死ぬまで勉強だぞ、勉強せにゃ!〃が口ぐせでした。岐阜城館長時代はもとより、その前後においても、県立図書館の図書資料は十二分に活用されていました。岐阜県博物館協会で始めた学芸関係職員のための会員研修会にも、第三回の東濃会場には、ご高齢ですい分歩行も困難に見えましたが参加されました。〃やっと、ほんものの学芸員勉強会が始まったな。わしもどんどん参加して勉強するぞ、会員館の職員も、積極的に出てこなきゃ!!〃と快気炎をあげられたのが印象深く残っています。〃今やバイオ・テクノロジィーの時代だ。郷土史をやっている俺だって、明日に生きるために、今一生懸命バイオ・テクノロジィーの本を2冊・3冊と読んでいるんだ〃ともおっしゃってみえましたが、その研修会でお会いしたのが最後となりました。

自説を曲げない信念の強さが、敵をつくったかもしれません。ところかまわない主張は、毒舌家といわしめたかも知れません。郷土史家と、植物生態学の私とでは、研究内容面での衝突はありませんでしたが、協会運営等については、若輩ものの私が、「このやろう」と思ったことも多々ありました。こちらも負けじと、理論的背景さえもってやりこめて云い返してやれば、内心では“わかる〃人であったのでしょう。次に会ったときにはケロリとしておられるのでした。そういう郷先生付き合い術さえ、こちらがわきまえていれば、話し合っていて教えられることの多い博学の人でした。

郷先生自身の生き方は、「もの」という具体物を大切にされ、個人経営の小さな博物館であれ、莫大な予算に裏付けされた大規模館であれ、「ひとりひとりが、自己学習の場として活用しなきゃならん」との思いから、自らそのことを実践し続けてこられた生涯でした。またそれに応えるために、利用される側の博物館人のあり方をも、求め続けてこられました。郷先生こそは、生粋の博物館人。正真正銘のキューレーターであり、一生涯学び続ける『学習人間』。勉強への情熱家であったことを、岐博協の歩みとともに見せていただきました。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

編集部追記

郷氏の著書に稲葉城落城年代考がある。郷氏は落城年代に最後までこだわっておられた。第3回目の会員研修会を恵那で開催した。「今、ぼくは本を書いているんだ」と稲葉城落城のことに関し熱っぽく語られた。

郷氏の写真を受け取りに、御子息の和彦氏に会う。残されていた稲葉城落城年代考に筆が入れられてあった。表紙を見ると、稲葉城落城年代考の横に〃最後決定版、岐阜県史、岐阜市史を斬る〃と書かれてあった。

モノを見るということ

（財）豊蔵資料館　齋藤基生

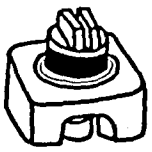
当館の主たる資料は故荒川豊蔵の作品である。そして来館者の目的もその作品を見ることにある。ところでなかに入って来るなり いきなり「〇百万円する茶碗はどれかね？」と尋ねる客がある。またこれほど露骨でなくても「高いんでしょうね」とヒソヒソ話す声もまま聞こえる。そのたびに情けない思いを味わう。

「モノ」の属性（価値）をはかるには、長さや重さなどの法量をはじめ、材質や製作技法、製作年代や製作者、それが持つ歴史的背景、など様々な「モノサシ」がある。お金がそのモノサシのひとつであることは否定しないが、お金が唯一絶対の尺度と思われるのが一番困る。確かにお金はより広範囲に適用できる非常に便利なモノサシであるが、それだけですべてがはかれないのもまた事実である。「お宅のお子さん偏差値いくつ？」この一言で子どもの全人格をはかられてはたまったものではない。偏差値もお金も一見大変有用なモノサシであるが、しょせん数あるモノサシのひとつでしかない。

モノは決して「ノー」とは言わない。こちらからの問いかけに対し、常に「イエス」とだけ答える。どんなにささいなことでも、どんなに多くのことでも、正しく問いかければ必ず正しく答を返してくれる。「ヤッダー」「ウッソー」「ホントー」しか口に出せない語彙貧乏の三語族には、それに似つかわしいお粗末な答しか返してくれない。モノを見るということは、それまでの自分の知識・経験を総動員し、モノに自分自身の姿を映すことにほかならない。同じ人が同じモノを見ても、年令や体調の善し悪し、社会的環境の変化などに応じて様々に姿を変え、まったく別物に見えてくる。これはただ博物館の展示物に限らず、文学・絵画・音楽・映画などあらゆるものにあてはまる。そしてそれらは、問いかける側の人生観・価値観に相応した返事をするのである。つまりお金でしかモノの価値をはかれない人にとって、当館の資料は土を捏ねて焼かれた茶碗の形をした金塊や現ナマでしかない。それもひとつの見方であることは否定しない。くどいようだがそれは見方のひとつでしかないことは知っていてほしい。

展示物から引き出されるモノ（情報）の量の多寡や質の高低は、見る人自身の問題である。例えレプリカであってもそれがレプリカであることを乗り越えてその本質を見抜きより高い自分を引き出せる人は、例えホンモノを見てもお金以外の判断規準を持てない人に比べてなんとすばらしいことか。つまるところ展示物は見る人の内面（人生観・価値観）を映す鏡であり、その鏡のくもりを拭いたり姿を映し易いようにその角度を調整するのが、我々博物館人にとって最大の仕事である。その際我々は、あくまでも黒子に徹すべきである。見る人の力を100％引き出すことが大切である。例えば陸上競技において、自分自身は100 *m*を10秒で走れなくとも 9秒台で走る選手を育てることは不可能ではない。ここで問題となるのは、我々博物館人はオリンピック選手だけを相手にするのではなく、町内会のヒーローまで様々な価値観を持った人々すべてをコーチする点にある。ひとつの材料（展示物）を使い、様々な力を持った人々それぞれが皆最大限の力量を発揮できるようにすることは大変難しい。しかし、それをこなさなければ我々の存在価値はなく、ただモノだけが並んでいるのと何ら変わりがない。開館時間中一切展示室に顔を出さず引き籠ったままで、入館者の心がわかるほど我々は神様ではない。

そして、入館者数の多寡でのみ館活動の善し悪しを判断している人は、入館数という鏡でしか自分の姿を映せない悲しさに少しでも早く気づいてほしい。雑事務をおき、展示室に出よ！



宮崎　惇氏　東海地区博物館連絡協議会表彰受ける

昭和62年度東海地区博物館連絡協議会総会が6月18日（木）・19日（金）に、静岡県（たちばな会館・県立美術館等）で開催されました。その総会に先だち表彰式において、当岐阜県博物館協会会員 宮崎 惇氏が、東海地区博物館連絡協議会表彰を受けられました。

宮崎惇氏は、昭和33年に岐阜県下では最初に学芸員の資格を取得され、多くの博物館の指導にあたり本県博物館界の発展に大きく貢献されました。また、昭和41年に岐阜県博物館協会が設立されると、教育普及事業に努力され、県内の博物館を紹介すべく紹介誌「岐阜県博物館要覧」を自費で発刊されました。さらには、この協会機関紙「岐阜県の博物館」の編集委員として、長らくその発行に携わってこられました。

昭和51年に、岐阜県博物館が開館された折には、その準備室段階から企画立案に参加され、初代自然係長として、いかんなく学芸員の力量を発揮し、親しみやすい博物館づくりに努力されました。

博物館から小学校長へ転出された後も、専門の貝類（タニシ）の研究はもとより、学校博物館の設立、学校教育における博物館利用といった面で、常に指導的役割を果してこられました。本年3月、笠松小学校長を退職される時には、「ふるさと笠松（上・下）」という、四季を通じての自然観察の大著も出版されました。

4月からは、笠松中央公民館長として、社会教育の第一線でご活躍なさるとともに、当機関紙にも研究成果をご発表いただき、後進への指導・啓蒙活動を絶え間なくしていただいております。宮崎惇先生の益々のご健勝を祈念しつつ、東海地区博物館連絡協議会表彰の慶事をお伝えいたします。

第7回会員研修会のお知らせ

協会機関紙77号でも提案されていたように、会員研修会の内容について若干の問題をかかえています。だからといって研修会を中止し、問題を解決してから開催するわけにはいかないのです。研修会を継続しながら、会員の智恵と努力で解決する以外方法はないのではないでしょうか。とりあえず、実践的な内容で取り組んでみたいと思います。

第7回岐阜県博物館協会会員研修会

期日　昭和62年9月15日（火）
　　10時～15時

場所　岐阜県博物館研修室

内容　手づくり展示実技講習
- ○キャプションのつくり方
- ○パネル作り
- ○パネル文字と配置

持ち物　タオル
　　もし作っておられる手づくりキャプションがありましたら持参してください。

参加申し込み
　岐阜県博物館学芸部　今井・安藤まで
　TEL 0575－28－3111

実技講習ですので、材料を準備しなければなりません、できる限り事前に係まで申し込んでください。

〈実技具体例〉

パネル作り　① わく作り
　　② 紙はり……紙の質
　　③ 文字を書く……何で書くか

実際にベニヤでわくを作り、紙をはっていただきます。文字もマジック、ポスターカラー、ネオカラーなどを使用し比較してもらいます。

また、両面テープの効果的な使用方法についても考えていきたいと思います。

第32回　岐博協セミナー開催

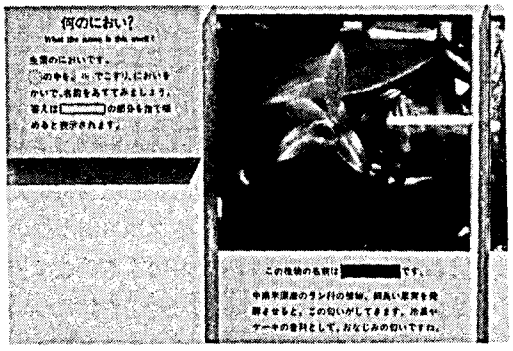
「内藤記念くすり博物館を見学して」

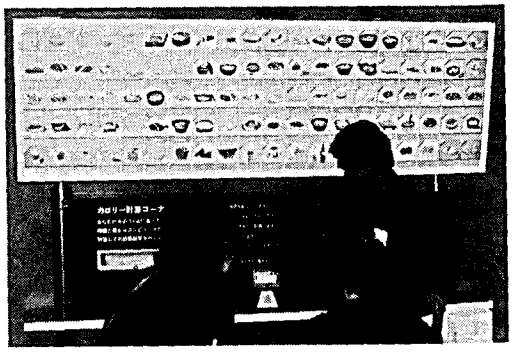
昭和62年度第1回の岐博協セミナーが、5月31日（日）に木曽川の中州にある川島町の内藤記念くすり博物館で行われた。夏を思わせるような日差しの強い午後1時ごろ、会員11人、非会員6人、計17人が県内各地から集まった。顔見知りの者、そうでない者が受付けを終えて、同新館1階の会議室に入った。暑い日だけに、館内の冷房が心地良かった。

岐博協事務局の大前匡昭氏（岐阜県博物館）の司会で始まった。まず、内藤記念くすり博物館長・青木允夫氏が、エーザイの創業者内藤豊次の命を受けて、資料ゼロからスタートし、昭和46年6月の開館にこぎつけるまでの資料収集にまつわる苦心談や昭和61年の新館建設に伴う展示方法などについて語られた。

青木館長は博物館づくりについては、それまでは全くの素人で一薬学者であったが、創業者の熱意と協力で、欧米の先進館を見学したり、資料を求めて一人で日本全国の薬屋などを尋ね歩き今日の基礎をつくったとのこと。今日では日本唯一のくすりの総合博物館となり、国の内外から資料・蔵書の寄贈・寄託があり、海外の研究者の来館も珍らしくないという。予算や運営については、企業博物館だけに弾力的で羨しく思った。

青木館長の説明のあと、2．3の質疑応答があって、早速館長及び館員の案内で新館の展示見学に入った。11のコーナーからなる展示資料





と解説は、歴史的アプローチと現代的アプローチでせまり、見学者の興味と関心を引き、途中で立ち止まる者もあり、見学者の流れが途切れてしまった程である。展示ケースのガラスの開閉方法や見学者がメモを取りやすくする展示ケースを囲む棒板の工夫など参考になった。またコンピューターによるカロリー計算のコーナーでは、他の一般の来館者が自分で試みていた。

館長は展示ケースの高さについての誤算などについて正直に話され、設計の難しさを改めて知らされた。

館内見学のあと、館の前庭にある薬用植物園に出て、育成管理者から説明を受けた。実際に葉を取ってにおいを香ぐことができるよう配慮されており身近に感じる薬草園であった。スプリンクラーが完備し、藤棚の下にベンチがあるなど美しい公園の中にいるような錯覚を持った。

一通りの見学を終わって藤棚の下で休けいをしたときは、一同心よい汗をしていたので、冷たいコーヒーのサービスは格別であった。

私はこの形式の見学は初めてであったが、親しみと興味関心を覚え有意義な半日であった。

参加者は少なかったが、そのためゆっくり説明を受けることができ、却って所期の目的を果たすことができたのではないか。

それにしても、企業博物館の熱意と創意工夫そしてきめ細かい配慮を感じ、いろいろ勉強になった。　　（岐阜県博物館　鳥居甚吾）

館・園紹介 No.67

日本土鈴館

〒501-51 郡上郡白鳥町大島1555番地
TEL〈05758〉2－5090

「奥美濃に新しい心のふるさと誕生」と話題を呼ぶ日本土鈴館を紹介します。

郡上郡白鳥町大島、国道156号線沿いに、赤い屋根瓦と白壁に格子窓が落ち着いた調和を見せる建物がそれです。全国各地の土鈴約1万点郷土がん具約5千点が展示してあります。

白鳥駅前で土産物店を経営する遠山一男氏が半世紀にわたって収集した、北は北海道から、南は九州・沖縄まで、質・量ともに日本一のスケールと評判のコレクションです。

「小学校の修学旅行のお土産に、土鈴を買いました。その後、旅先でいろいろな土産を買うちに、高価なものではなくても、土や紙・木や竹などの手づくりの品の中に、その土地の持つ素朴なぬくもりを感じ、土鈴の音色には特に魅せられました。」日本全国を旅して、集めるうちに「数が増えすぎて、置き場がなくなってしまいました。このまま私蔵すれば“死蔵”になってしまうし、公開することで土鈴の愛好者に喜んでもらえればと、土鈴館の建設を思いつきました。」

遠山氏のコレクションは単に土鈴の数を誇るものでなく、1点1点すべて通し番号が付けられ、名前・産地・作者名・購入の日時・値段などが記録されており、資料価値として極めて貴重なものなのです。

なかには、直径5㎜の日本最小のもの、全国に3つしかないという羽子板の形をしたもの、政治家やタレントなど“話題の人”の似顔の土鈴など珍品・奇品も少くありません。約220㎡の館内には、作者別・テーマ別・時代別に所狭しと土鈴が展示されており、その数に圧倒され時のたつのを忘れさせてくれます。

また、郷土がん具・民芸品のちょうちんや絵馬・土人形・面・凧などが壁や天井を飾り、ふるさとのぬくもりを伝えてくれます。

館長遠山氏の夢は土鈴館完成でとどまらず、子供たちが昔ながらのおもちゃで遊べるコーナーを併設した「郷土玩具館」の建設へとひろがっていきます。「現代のファミコンには夢や温かさがない。子供たちが土や紙や木で、おもちゃづくりを楽しめるような、第二土鈴館をいずれはつくりたい。」と、心はすでに隣の空地へと飛んでいます。

岐阜県博物館協会に、ユニークな情熱あふれる仲間が加入されたことを紹介します。会員の皆様、是非おでかけ下さい。

◎日本土鈴館

入館料　大人300円
　　小・中学生200円
　　（20名以上の団体は1割引）
休館日　木曜日
問い合せ　TEL 05758－2－5090

昭和61年度 岐阜県博物館協会歳入歳出決算書

歳入総額　1,203,221円
歳出総額　1,079,453円
差引残高　123,768円

★歳入の部★　（単位円：△減）

科目	予算額	収入済額	増減	備考
前年度より繰越額	73,970円	73,970円	0円	
会費	524,000	487,000	△ 37,000	
補助金	640,000	640,000	0	
雑入	5,030	2,251	△ 2,779	預金利息
計	1,243,000	1,203,221	△ 39,779	

★歳出の部★

科目	予算額	支出済額	残額	備考
事務局費	170,000円	143,840円	26,160円	
通信連絡費	130,000	105,240	24,760	
会議費	0	0	0	
印刷費	20,000	19,600	400	
需用費	20,000	19,000	1,000	
機関紙費	380,000	334,834	45,166	年4回発行
印刷費	200,000	174,900	25,100	
送料	70,000	67,810	2,190	
取材費	100,000	88,204	11,796	
会議費	10,000	3,920	6,080	
セミナー費	170,000	105,457	64,543	年4回開催
開催費	120,000	60,000	60,000	
印刷費	10,000	8,000	2,000	
通信連絡費	30,000	29,107	893	
会議費	10,000	8,350	1,650	
三県交流研修費	18,000	17,960	40	
東海博総会費	180,000	177,320	2,680	
日博協全国大会費	50,000	56,802	△ 6,802	
総会費	55,000	51,750	3,250	
通信費	15,000	15,000	0	
会場費	7,000	6,500	500	
印刷費	3,000	3,000	0	
食糧費	30,000	27,250	2,750	
協会会員研修会費	60,000	59,420	580	
学芸技術員講習会費	5,000	0	5,000	
常任理事会費	65,000	56,250	8,750	
会議費	20,000	18,850	1,150	
旅費	45,000	37,400	7,600	
表彰費	60,000	50,720	9,280	
振替手数料	5,000	100	4,900	
慶弔費	10,000	10,000	0	
予備費	15,000	15,000	0	
計	1,243,000	1,079,453	163,547	

昭和62年度 岐阜県博物館協会歳入歳出予算

★歳入の部★

科目	予算額	前年度(61年度)予算額	増減	備考
前年度より繰越額	123,768円	73,970円	49,798円	
会費	483,000	524,000	△ 41,000	
補助金	490,000	640,000	△ 150,000	
雑収入	2,232	5,030	△ 2,798	預金利息
計	1,099,000	1,243,000	△ 144,000	

★歳出の部★

科目	予算額	前年度(61年度)予算額	増減	備考
	円	円	円	
事務局費	170,000	170,000	0	
通信連絡費	130,000	130,000	0	
印刷費	20,000	20,000	0	
需用費	20,000	20,000	0	
機関紙費	357,000	380,000	△ 23,000	年4回発行
印刷費	200,000	200,000	0	
送料	70,000	70,000	0	
取材費	77,000	100,000	△ 23,000	
会議費	10,000	10,000	0	
セミナー費	170,000	170,000	0	年4回開催
開催費	120,000	120,000	0	
印刷費	10,000	10,000	0	
通信連絡費	30,000	30,000	0	
会議費	10,000	10,000	0	
三県交流研修費	18,000	18,000	0	
東海博総会費	55,000	180,000	△ 125,000	
日博協全国大会費	125,000	50,000	75,000	
総会費	48,000	55,000	△ 7,000	
通信費	15,000	15,000	0	
会場費	0	7,000	△ 7,000	
印刷費	0	3,000	△ 3,000	
食糧費	33,000	30,000	3,000	
協会会員研修会費	60,000	60,000	0	年3回開催
学芸技術員議習会費	5,000	5,000	0	
常任理事会費	70,000	65,000	5,000	
会議費	25,000	20,000	5,000	
旅費	45,000	45,000	0	
表彰費	10,000	60,000	△ 50,000	
振替手数料	1,000	5,000	△ 4,000	
慶弔費	10,000	10,000	0	
予備費	0	15,000	△ 15,000	
計	1,099,000	1,243,000	△ 144,000	

昭和62年度

協会役員の選任について

本年度の岐阜県博物館協会通常総会において役員の一部が次の通り選任されましたので報告します。

副会長　青木允夫（内藤記念くすり博物館）
理事長　松本五三（郡上八幡民芸美術館）

―新刊紹介―

季刊ミュージアム・データ　発刊！

丹青総合研究所・文化空間研究部の編集・発行により年4回の季刊誌で、№1（4月）には、特集「61年度新設博物館の傾向」セミナー・レポートとして「ミュージアム・ショップ」ヴィジュアル・データーとして「博物館数の地域格差」それに雑誌・文献情報として海外・国内の博物館学諸論文・報告の紹介一覧の他、国内外の博物館関係諸学会、団体の活動スケジュール、国内新聞の博物館関係記事一覧等が収録されています。発刊のことばにあるように、"国内外の博物館や協会など、関連諸団体とのネットワークによって集められた各種のデーターを分析・編集"したもので、A4.12頁。全国的な博物館界の動きが概観でき、博物館人には欠かせない情報源といえます。問い合わせ先は、〒110　東京都台東区秋葉原5－9　株式会社 丹青総合研究所文化空間研究部．TEL 03－836－7323 まで。

―情報コーナー―

変色防止用液漬標本の作り方

笠松町中央公民館館長　宮崎　惇

完全に生きた時のままの体色を液漬標本に求めることは至難の技で、よりよく保つためにいろいろ研究されているが、ここでは京都大学の吉田洋一博士の方法を紹介する。

10％ホルマリン水溶液に海水を30％または食塩を1％加え、さらにアスコルビン酸ソーダを0.5％加えて保存液を作り、下記のように処理する。

1. 魚は生きたもので、無傷のものを使う。
2. 上記の保存液は作ってから2時間以内に標本びんに密封する。
3. 標本びんはアラールダイトやろうなどで密栓をする。
4. 体腔内のガスを注射器等で抜いて、保存液と置きかえる。
5. 標本びんの空間はすくなめにする。

県内ニュース

岐阜県陶磁器陳列館よりお知らせ

新館へ移転のため本年10月から閉館します。新館の開館は昭和63年4月の予定です。新館は回廊式の建物で、展示方法も一新します。

国府町郷土館・民俗館の開館日の変更

4月1日～11月30日までの期間のうち、日曜日及び祝祭日のみ開館。

催し物案内

○岐阜県美術館
　第30回　安井賞展
　　8月28日～9月20日まで
○岐阜市歴史博物館
　織部～陶片の美　9月3日～9月30日
○瑞浪陶磁資料館
　陶磁器赤絵展　9月29日まで
○関ケ原町歴史民俗資料館
　中山道展（本陣．腕本陣．旅籠見取図など）
　　10月31日まで

編集後記

◎　故郷浩氏の追悼号のため増ページとなりました。郷浩氏の岐阜県博物館協会に注がれた熱意を忘れたくないものです。　（S.A）

◎　編集委員の動きがにぶく、なかなか筆が進まない。会員の皆様に顔向けができないと小さくなっています。次号から予定通りの発刊を願いつつ……。　（M.I）